



# 蓑虫ミーノ



ファッションショー編

anzu

# 手紙が届く

---

「郵便です。」

芋虫達の家に通の手紙が届きました。

# 案内状

---

第五回

芋虫のファッションショー開催

場所 青空広場

日時〇月〇日〇曜日 お昼一時

みなお洒落をして来てください。

## 臆病なミーノ

---

手紙は、臆病なミーノにも届きました。

「どうせ、僕なんて笑われるだけに決まってる。いやだ、いやだ、絶対に行くもんか。」

ミーノは、蓑の中に深く顔を埋めてつぶやきました。

ミーノは外の世界がきらいでした。

みんな自分より、立派で素敵に見えて笑われるのが怖かったのです。

ある日のこと、いつものようにミーノは、蓑の中でくつろいでいました。

# 風

---

その時です。

大きな風が吹いてきて、あれよあれよという間に、ぶら下がっている枝が折れて、一緒に吹き飛ばされてしまいました。

## 初めての世界

---

しばらくして恐る恐る顔を出して見ると、随分遠くまで来ていました。ミーノは、元の場所へ帰る為、産まれて初めて外の世界を歩く事になりました。

「うわあ、なんて広いんだ。誰かに会ったらどうしよう。怖いなあ。」

ミーノはそう呟くと、隠れるようにして、とぼとぼ歩き出しました。

# 青虫

---

しばらくいくと、前から、緑の色が輝いている青虫が来ています。

さっとミーノは木の陰に隠れました。その時です。空から鳥が青虫めがけて一直線に飛んできているのが見えました。

# 勇気

---

ミーノは、怖かったけど、勇気を出して、

「青虫君、危ない！」

そう言うが早いか、自分の蓑から一番太い枝を取ると、鳥めがけて投げつけました。鳥は、おどろいて逃げて行きました。



# 友達

---

青虫は、それに気づくと、

「ありがとう、みの虫君。強いんだね。いつも、その丈夫な蓑の事、羨ましく思ってたんだ。それさえあれば、鳥が襲ってきても見つからないよね。僕の名前はアオ。僕と友達になってくれる？」

「僕の方こそ、アオ君の綺麗な色が羨ましいよ。僕は、ミーノ。喜んで友達になるよ。」

と、にっこりしました

## 約束

---

「その蓑の穴に、これを・・・。

では、ミーノ君、ファッションショーで会いましょう。」

と、言ってアオは、緑の葉っぱのチョッキをくれました。ミーノは、アオにお礼を言い別れて、初めての友達に、少しドキドキしながら、帰り道を急ぎました。

# 毛虫

---

すると、道の真ん中に大きな水溜りがありました。その脇を恐る恐る通り過ぎようとしているとパシャパシャと音がします。よく見ると、豪華な毛皮を来た毛虫が濡れかけていました。ミーノは、自分がみすぼらしく感じるので、派手な毛虫が苦手でした。

## 知恵と勇気

---

でも、今にも水に沈みそうな毛虫を見て、勇気を出して自分の蓑から一番広い枝を取り、糸をつけて毛虫の所へ投げました。

「毛虫君、これにつかまって」

毛虫は、それに掴まり無事岸にたどり着くことが出来ました。

## 友達 2

---

「ありがとう、蓑虫君。僕は、蓑虫君が羨ましいよ。君の蓑は、水にも浮くし、怖い敵からも隠れられるし、なんと言っても色んな枝がついていて素敵だしね。僕の名は、ケムケム。僕と友達になってくれる？」

「僕の方こそ、ケムケム君の毛皮は、素敵で羨ましいよ。僕は、ミーノ。喜んで友達になるよ。」  
と、にっこりしました。

## 約束 2

---

「その褻の穴にこれを・・・。

では、ミーノ君、ファッションショーで会いましょう。」

と、言ってケムケムは、自分の毛で編んだマフラーをくれました。ミーノは、ケムケムにお礼を言い別れると、二人目の友達にうきうきと心弾ませながら歩き出しました。

## 青空広場

---

ふと気がつくと青空広場まで来ていました。

間もなくファッションショーの時間です。

そのまま通り過ぎようと思いましたが、素敵な友達と約束をしていたので迷いましたがファッションショーに出ることにしました。

## ファッションショー

---

ファッションショーが始まり、色んな綺麗な色をした芋虫達、豪華な毛皮を着た毛虫達が、次々と出てお洒落を競っています。次は、ミーノの番です。



# 自信

---

ミーノは、友達に褒めてもらった蓑に、アオのくれた緑の葉っぱのチョッキと、ケムケムにももらった毛で編まれたマフラーをつけて登場しました。すると

「素敵！」

と、会場から拍手がおこりました。

ミーノは、もう順位なんて気にしていません。それより素敵な友達が出来たことと、蓑を褒めてもらったことが嬉しかったのです。

# 勇気と自信

---

いよいよ優勝者の発表です。みんなドキドキしています。

「今年の優勝は、蓑虫のミーノくんです。」

今のミーノは、勇気と自信で満ちて輝いていました。

おしまい